

## トマトキバガのフェロモントラップへの誘殺数・圃場での発生が増加しています！よく観察し、食害を見つけたら直ちに防除を！

### 現在の状況

- 1 県内のトマト及びミニトマト生産圃場周辺等に設置しているフェロモントラップへの誘殺数が、8月下旬以降大幅に増加している（図1）。
- 2 4月以降、育苗期間も含め、県内のトマト及びミニトマト圃場で葉や果実及び生長点の食害（疑い含む）が18事例確認されている。夏秋栽培において、秋期は一般的に防除圧が低くなることから圃場での発生の拡大が懸念される。

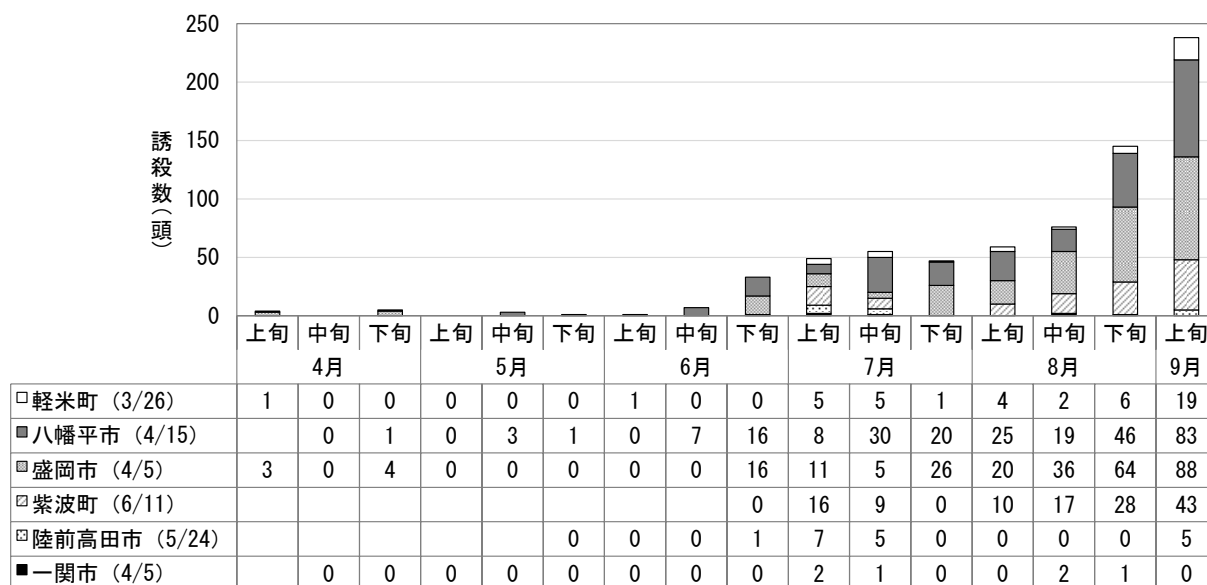


図1 県内各地に設置したトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺状況

※ 市町村名の後ろのカッコ内はトラップ設置日を示す。

### 防除対策

- 1 圃場をよく観察し、発生の確認に努める。
  - (1) 幼虫は0.5~8mm程度と微小で、葉肉内を袋状に食害し潜葉痕を生ずる（図2）。
  - (2) 幼虫は特に若い葉や生長点を好んで食害する傾向があり、生長点を食害されるとひどい時には芯が止まり枯れあがる場合がある（図3）。
  - (3) ハモグリバエ類による潜葉痕と類似するが、ハモグリバエ類は線状に痕を残すのに対し、トマトキバガは面的に食害する（図4）。また、トマトキバガの潜葉痕は光にかざすと裏からも透けて見えることが特徴である。
  - (4) 果実へは、初め比較的小さな穴を開けて食入する。食害はゼリー室まで到達することもあれば、果実表面を数ミリ程度穿孔し、食害部分が腐敗する場合もある（図5）。
  - (5) トマトキバガの被害と生態の特徴は、「令和5年度病害虫発生予察情報特殊報第1号：トマトキバガの発

生について」を参照のこと。

2 トマトキバガの発生が疑われたら直ちに最寄りの農業改良普及センターへ連絡し、発生種の確認を行う。

3 以下の対策を組み合わせることで、効果的な防除が期待できる。

(1) トマトキバガに適用のある農薬を散布する。トマトキバガは世代のサイクルが早く、海外では薬剤抵抗性の発達が報告されていることから、同じ系統の薬剤を連続した世代で連用しないように薬剤を選択する。なお、薬剤散布に当たっては最新の農薬登録情報を必ず確認すること。また、本年はオオタバコガも例年より多く発生していることから、トマトキバガとオオタバコガの両種に適用のある農薬を選択するとよい（令和6年度農作物病害虫防除速報No. 14参照、表1、2）

(2) 摘葉や整枝を適切に行い、幼虫や卵の耕種的防除を行う。

(3) ハウス入口や開口部に目の細かいネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。

(4) 残さ及び食害果は土中に深く埋設するか、ビニル袋等に十分期間密閉したのち、適切に廃棄する。



図2 葉の潜葉痕（左：初期、右：進行）



図3 生長点付近の食害状況と幼虫



図4 ハモグリバエ類による潜葉痕（上）と  
トマトキバガによる潜葉痕（下）

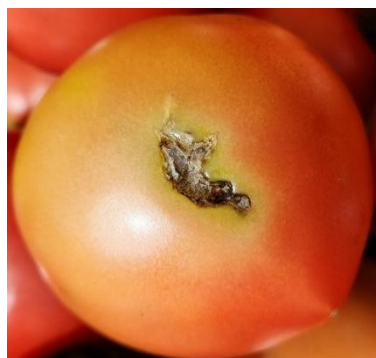


図5 トマト果実の食害痕（上：果実表面の食害痕、  
下：食害果外観（左）と内部（右））

表1 トマトキバガに登録のある薬剤（トマト）

商品名	農薬の種類	IRACコード	使用方法名称	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍数・使用量	成分の総使用回数	オオタバコガへの適用
ディアナSC	スピネトラム水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	2500～5000倍	2回以内	○
ラディアントSC		5	散布	収穫前日まで		2500～5000倍		○
ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内	○
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6	散布	収穫前日まで	5回以内	2000倍	5回以内	○
アグリメック	アバメクチン乳剤	6	散布	収穫前日まで	3回以内	500～1000倍	3回以内	-
アニキ乳剤	レピメクチン乳剤	6	散布	収穫前日まで	3回以内	1000倍	3回以内	○
エスマルクDF	B T水和剤	11A	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	1000倍	-	○※3
コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍	3回以内	○
トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内	○
ファイントリムDF		22A	散布	収穫前日まで		2000倍		○
アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B	散布	収穫前日まで	3回以内	1000倍	3回以内	○
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内	○
ブリロッソ粒剤	シアントラニプロール粒剤	28	株元散布	育苗期後半～定植時	1回	2g/株	※1	-
ブリロッソ粒剤オメガ		28	株元散布	育苗期後半～定植時		2g/株		-
ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	28	灌注	育苗期後半～定植当日		400株あたり25mL		-
ベネビアOD		28	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍		○
ヨーバルフロアブル	テトラニプロール水和剤	28	散布	収穫前日まで	3回以内	2500倍	※2	○
グレースシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内	○
プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内	○

※1 4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)

※2 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)

※3 野菜類での登録

表2 トマトキバガに登録のある薬剤（ミニトマト）

商品名	農薬の種類	IRACコード	使用方法名称	使用時期	本剤の使用回数	希釈倍数・使用量	成分の総使用回数	オオタバコガへの適用
ディアナSC	スピネトラム水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	2500～5000倍	2回以内	○
ラディアントSC		5	散布	収穫前日まで		2500～5000倍		○
ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内	○
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6	散布	収穫前日まで	5回以内	2000倍	5回以内	○
アニキ乳剤	レピメクチン乳剤	6	散布	収穫前日まで	3回以内	1000倍	3回以内	○
エスマルクDF	B T水和剤	11A	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	1000倍	-	○※3
コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍	3回以内	○
アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B	散布	収穫前日まで	3回以内	1000倍	3回以内	○
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内	○
ブリロッソ粒剤	シアントラニプロール粒剤	28	株元散布	育苗期後半～定植時	1回	2g/株	※1	-
ブリロッソ粒剤オメガ		28	株元散布	育苗期後半～定植時		2g/株		-
ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	28	灌注	育苗期後半～定植当日		400株あたり25mL		-
ベネビアOD		28	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍		○
ヨーバルフロアブル	テトラニプロール水和剤	28	散布	収穫前日まで	3回以内	2500倍	※2	○
グレースシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内	○
プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内	○

※1 4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)

※2 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)

※3 野菜類での登録

**【利用上の注意】**

本資料は、令和6年9月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。

・農薬使用の際は(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

**【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】** TEL:0197(68)4427 FAX:0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/2003279/index.html>

